

VII 総括 伝沖ノ島出土返納品の評価について

水野 敏典 奈良県立橿原考古学研究所

「伝沖ノ島出土返納品（以下、「返納品」とする）」は、『沖ノ島』、『続沖ノ島』、『宗像沖ノ島』に報告されている沖ノ島祭祀特有の器物を含み（復興期成会1958、復興期成会1961、復興期成会1979）、出土品と同一個体、あるいは類品を多数確認できた点で、沖ノ島祭祀奉納品として高い一括性をもつ資料と評価できる。

調査により、沖ノ島祭祀の評価につながる成果があったので、まとめておきたい。

一つは、返納品中の八鳳鏡（変形夔鳳鏡片）である。夔鳳鏡は下垣仁志による日本列島内出土の銅鏡集成によると6千数百面中で大小加えても約30面と希少な鏡種である（下垣2016）。にもかかわらず17号と18号遺跡に、直径約22.1cmの大型品が出土していた。夔鳳鏡は数が少ないためか、注目される機会が少なかったが、今回、返納品中の鏡片と18号遺跡出土鏡片、さらに伝宮地嶽付近出土鏡片が同一個体と判明し、広島県尾ノ上古墳出土鏡と同型技法による同一文様鏡と判明した。加えて18号遺跡と17号遺跡の八鳳鏡（変形夔鳳鏡）は、同型式であるが、同範・同型関係にはないことも確認できるなど、多くが明らかとなった。

二つ目は、滑石製玉類である。調査を通し、滑石製白玉を統計的手法と詳細観察により量産技法である「沖ノ島技法」の再定義を行うとともに、沖ノ島祭祀に特徴的な扁平菱形剣形と、韓国竹幕洞遺跡出土品との関連も明らかとなった。

三つ目は、金銅装甲冑のセットとしての確認である。返納品中に金銅装甲冑片を確認し、それを足掛かりに21号遺跡に同一個体とみられる金銅装甲冑片を確認した。古墳時代中期の金銅装甲冑の出土は非常に希少であり、代表的な類例が日本最大の前方後円墳である大阪府大仙古墳（伝仁徳天皇陵古墳）出土品であることから、古墳時代中期の大和王権がいかに沖ノ島祭祀を重要視したかが判明した。

最後に、沖ノ島祭祀における金銅装甲冑奉納の意

義について再確認しておきたい。金銅装甲冑のセットは、古墳時代中期の沖ノ島祭祀を代表する奉納品となる。

古墳時代前期後半からの三角縁神獣鏡に代表される銅鏡群は、九州全体を見渡しても突出した出土量をもつ。そして古墳時代後期には、一昨年度のX線CT調査で確認された銚全体に象嵌をもつ三角穂式鉄銚がある（検討会2025）。三角穂式鉄矛は倭製武器とみられるが、古墳副葬品に類例を確認できない突出した優品であった。

今回の発見は、古墳時代前期と後期に挟まれた古墳時代中期の沖ノ島祭祀の再評価を迫るものである。これまでに古墳時代中期の奉納品として、銅鏡、鉄製甲冑、蔵手刀子や鉄鎌が知られていたが、畿内の有力古墳の副葬品に準じるものに留まっていた。古墳時代中期の倭製の金銅装甲冑のセットは、大王陵級の古墳に副葬される極めて限定的で最上級の副葬品とみられる。これの沖ノ島祭祀への奉納を確認できたことで、大和王権における沖ノ島祭祀の重要性が、古墳時代前期や後期と比べて衰えることなく継続していたことが明らかとなった。

古墳時代の約300年あまりの大和王権を取り巻く変化を考えると、沖ノ島祭祀が一貫して特別な地位を保持したことに驚かされる。その変化とは、第1に、中国王朝や半島各国との外交姿勢や交易を含めた政治的、経済的な変化である。古墳時代前期古墳の中国鏡や素環頭大刀にみる中国(魏晉)との交渉、古墳時代中期の「倭の五王」に代表される対外交渉と後期における中国王朝との交渉途絶がある。並行して鉄や銅などの社会を支える物資の供給先も国産化へと変化する。第2に、大和王権を支えた有力氏族の交代である。葛城氏、和爾氏、物部氏、蘇我氏などの交代が文献からうかがわれるが、個々の氏族的な特性は影響しない。第3に、儀礼や葬送観の変化である。古墳副葬品と沖ノ島祭祀の奉納品には重複する部分があり、その中核となる品は銅鏡から甲

冑へ、さらに金銅装大刀や馬具という変化をみせる。単に奉納品の変化ではなく、古墳埋葬施設が竪穴式石室から横穴式石室への変化が示すように葬送観念の変化もうかがわれる。第4に、古墳時代後期には仏教伝来があり、宗教的、思想的影響を受ける。これらの政治的、経済的、宗教的な変化にもかかわらず、大和王権での沖ノ島祭祀の重要性が一貫して揺るがない点、しかも、類似した国家規模の祭祀が他に確認できず、文字通りの唯一無二の存在という特殊性を再確認した。

今後、この点も沖ノ島祭祀を考える上で解明すべき大きな課題と言える。

参考文献

- 国宝金銅製矛鞘検討会2025「沖ノ島8号遺跡出土金銅製矛鞘の新知見」『沖ノ島研究』第11号
- 宗像神社復興期成会1958『沖ノ島』吉川弘文館
- 宗像神社復興期成会1961『続沖ノ島』吉川弘文館
- 宗像大社復興期成会（第三次沖ノ島学術調査隊）1979『宗像 沖ノ島』精興社
- 下垣仁志2016『日本列島出土鏡集成』学生社

本誌のデータは、本遺産群のデジタル・アーカイブ
「MUNAKATA ARCHIVES」の「宗像研究文献」より
閲覧・ダウンロードできます。
<https://www.munakata-archives.asia/>

沖ノ島研究 第12号

令和8(2026)年7月発行

発行：「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会
(事務局：福岡県市町村・地域振興部文化局九博・世界遺産・文化施設課)
〒812-8577 福岡県福岡市博多区東公園7番7号

ISBN 978-4-9913533-5-2